

日本語教育部

■2025 年度

日本語教育部では、春学期と秋学期（セメスター・ターム）に日本語の授業を開講し、本学に在籍する留学生の日本語学習のニーズに対応している。このほか、日本語教育関連プロジェクトや各種留学プログラムの企画・運営も行っている。

1. 日本語教育関連プロジェクト

▼学内行事「第 15 回 YNU 日本語スピーチ大会」開催

2025 年 12 月 9 日、第 15 回 YNU 日本語スピーチ大会を開催した。当日は、留学生を含む本学の学生、本学教職員のほか、日ごろ留学生支援に携わるボランティアの方々にもご来場いただき、総勢 120 名近くの方々にお越しいただいた。また、懇親会も開催され、約 50 名の方々にご参加いただいた。

本学で学ぶ留学生 10 名が「昔の自分に伝えたいこと」というテーマでそれぞれの思いを日本語で表現した。審査の結果、最優秀賞は韓国からの留学生で、世宗プログラムのイ・ナユンさんが受賞した。

なお、今回のスピーチ大会も例年通り国際交流の機会を促進するという目的のもと「国際理解：国際交流における日本語の役割」クラスの受講者にスピーチ原稿のチェックや発表の練習の手伝いをお願いした。スピーチ大会当日の様子は本大会後援でもある読売新聞にて（12/10）紹介された。なお、昨年度に続き、スピーチ大会の賞金・賞品については横浜国立大学校友会の後援を受けた。

▼日本語サポーターの日本語クラス参加

2013 年度より日本人学生による留学生支援や留学生との交流の促進を目的に日本語サポーターバンク制度を取り入れている。国際教育センターウェブサイト上で日本語サポーター募集クラスを公開し、日本人学生の日本語クラスへの参加の機会を提供している。2025 年度は様々な学部・学府に所属する学生計 76 名が新規登録をし、主に初中級レベルのクラスに参加した。

<https://isc.ynu.ac.jp/support/bank/>

2. 日本語科目

横浜国立大学の日本語の授業は、受講生の身分や単位修得の必要性によって以下の4つの科目に分けられる。詳細は、年2回発行される『日本語プログラムパンフレット』

(<http://www.isc.ynu.ac.jp/study/pamphlet/>)に記載されている。

▼全学教育「日本語・日本事情」

全学教育科目「日本語中級」9コマ、「日本語上級」10コマ、「日本語演習3コマ」、「日本事情」1コマを開講し、年間延べ55名の学部生が受講した。

▼YOKOHAMA ソクラテスプログラム・JOY プログラム日本語科目

YOKOHAMA ソクラテスプログラム生、短期留学国際（JOY）プログラム生のための科目であり、さまざまな国からの留学生が受講した。

▼国際交流科目日本語

国際交流科目日本語は、単位修得を目的とした科目で、2025年度は、日本語・日本文化研修留学生、世宗大学校日本交流プログラム、横浜国立大学日本語・日本文化プログラム生が受講した。

▼全学講習日本語科目

「全学講習日本語コース」は、単位修得を目的としない科目で、主に大学院生と研究生が受講対象である。修了条件を満たした場合には、修了証を発行している。2025年度も多くの大学院生および研究生が受講した。

▼特別クラスの開講

・2025年度秋学期に日越大学 MBA プログラムの学生のために特別クラス（初級および中級クラス）を開講した。

・2025年度秋学期にインフラストラクチャー管理学（IMP）の学生のために特別クラスを開講した。

3. 各種留学プログラム

▼短期留学国際プログラム（JOYプログラム）

協定校からの交換留学生を1学期または2学期間受け入れるプログラムで、留学生は日本語科目や英語による専門科目授業を受講する。受講が認められれば、全学教育科目や各学部が開講する専門科目の受講も可能である。日本語科目は必修ではないが、多くの留学生が日本語科目を受講した。

▼横浜国立大学国際プログラム・世宗大学校日本交流プログラム

本プログラムは、韓国の世宗大学校と本学都市科学部の部局間協定に基づいた授業料徴収型短期留学プログラムである。修学期間は1年とし、学生は原則として国際戦略推進機構が開講する日本語科目と講義科目（日本語による日本事情科目、国際理解科目）、および都市科学部が提供する講義科目を年間20単位履修する。その単位は世宗大学校で互換単位として認定される。コロナ禍のため、2020～2022年度には受け入れを中止していたが、2023年度に再開し、2024年度に23名、2025年度は20名を受け入れた。

▼横浜国立大学日本語・日本文化プログラム

2016年10月より新しく授業料徴収型短期留学プログラムである横浜国立大学日本語・日本文化プログラムを立ち上げた。本学部局と相手大学の学部等が部局間協定を結ぶものであり、2019年度からは協定部局がこれまでの国際戦略推進機構から都市科学部へと移行した。2025年度には台湾淡江大学の学生12名を受け入れた。修学期間は1年とし、学生は原則として国際戦略推進機構が開講する日本語科目と講義科目（日本語による日本事情科目、国際理解科目）、および都市科学部が提供する講義科目を年間24単位履修する。その単位は淡江大学で互換単位として認定される。

▼日本語・日本文化研修留学生（国費）の受け入れ

2014年度より、日本語日本文化研修生（国費）の受け入れを開始した。1期生4名（ブルガリア1 インドネシア1 タイ2）、2期生3名（韓国、フランス、ベルギー）、3期生3名（ハンガリー、ミャンマー、韓国（大学推薦））、4期生6名（ロシア、ブルガリア、モンゴル、シンガポール、ペルー、スロベニア（大学推薦））、5期生5名（ブラジル、モンゴル、カザフスタン、エストニア、イギリス（大学推薦））、6期生2名（中国、韓国（大学推薦））、7期生（ウクライナ、インドネシア、フランス（以上3名は11月に渡日）、中国（母国からの参加、渡日せず）、ブラジル（2022年3月渡日））、8期生（ブラジル1名 韓国1名、2022年10月渡日）、2023年秋には9期生（ロシア、ハンガリー、韓国3名うち1名は大学推薦、計5名）、2024年10期生4名（ブラジル、ロシア、韓国、中国、内一名は大学推薦）を受け入れ、2025年11期生1名（ポーランド）を受け入れた。日本語レベルや専門に応じ、日本学プロジェクト（必修）のほか、日本語科目や全学教育科目等を履修している（各学期合計12単位以上）。修了論文のテーマや最終発表の成果物はウェブサイトに掲載している。

http://www.isc.ynu.ac.jp/about/program/japan_studies_project/

▼日本語研修コース

日本語研修コースは、予備教育生（大学院進学予定の国費研究留学生）および教員研修留学生を対象とした15週のコースであり、レベル等によって、7～9コマの日本語科目の受講を義務付けている。2025年度大学院予備教育生は、春学期1名、秋学期6名を受け入れた。

▼科目等履修生制度の実施

神奈川県下の大学に在籍する留学生が本学の日本語科目を履修できる制度である。科目等履修生制度を作り2025年8月、2026年2月に募集を行った。

4. 国内・海外出張

▼海外出張

- ✓ 出張者：中川健司
- ✓ 出張先：台湾
- ✓ 期間：2026年2月24日～2026年2月27日
- ✓ 用件：淡江大学（横浜国立大学日本語・日本文化プログラムに関する関係者打ち合わせ、同プログラムの説明会）

- ✓ 出張者：金蘭美、范一楠
- ✓ 出張先：韓国
- ✓ 期間：2026年3月16日～2026年3月19日
- ✓ 用件：世宗大学校（世宗大学校日本交流プログラム生に対する事前オリエンテーションおよびプレイスメントテストの実施／関係者打ち合わせ）

5. その他

- ・ 本学の日本語教育、留学生教育の歴史を記録するプロジェクトを立ち上げ、2025年度は、年表作成（国際教育センターウェブページ公開予定）し、インタビューに基づいた報告を『ときわの杜論叢』第13巻1号に投稿した。
- ・ 文部科学省委託事業 日本語教師養成・研修推進拠点整備事業（関東・甲信越ブロック）の依頼を受け、オンラインイベント第4回情報交換会「神奈川県日本語教育（介護編）」を、同事業と本学の共催の形で企画、2026年2月14日に開催した。